

「日本経済の発展の道筋を確立する」
 — 国民生活の豊かさを実現するために —
概 要

2014年1月20日
 一般社団法人 日本経済団体連合会

1. はじめに

- 日本経済は着実な回復が続いている。将来への明るい展望が拓け、「成長への自信」を取り戻しつつある今こそ、企業自ら先頭に立って、新たな成長の機会を作り出し、豊かな国民生活を実現する絶好の機会。
- 東京オリンピック・パラリンピックが開催される「2020年」までを、持続的成長の礎を築くための集中対応期間と位置づけ、その後も力強い経済成長が続くよう、官民ともに取り組むべき。
- そこで、2030年度に向けて日本が新たな成長ステージに立つための方策を提示。

2. 目指すべき国・経済の姿

- (1) 名目3%程度の持続的成長と財政健全化の実現
- (2) 企業収益の拡大が雇用・家計所得の向上に結び付く「好循環」の形成
- (3) 真にグローバルな日本経済の確立（「貿易・投資立国」「観光立国」）
- (4) 最先端の科学技術で世界をリード（「科学技術イノベーション立国」）

3. 成長を牽引する「6つのエンジン」

6つのエンジン	具体的施策の例
(1) グローバル化を進める	<ul style="list-style-type: none"> ➢ TPPをはじめとする経済連携協定の推進・2020年を目途とするFTAAPの構築 ➢ パッケージ型インフラ輸出の促進 ➢ コンテンツ・ソフトビジネスの海外展開 ➢ 魅力ある都市の再構築・観光振興、等
(2) イノベーションを加速する	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 科学技術イノベーション政策の推進 ➢ ICTの利活用 ➢ 革新的エネルギー・低炭素技術・製品の開発 ➢ 「未来都市モデルプロジェクト」の推進、等
(3) 国内の新たな需要を掘り起こす	<ul style="list-style-type: none"> ➢ コンパクトシティ・スマートシティへの対応 ➢ 農業の競争力強化と成長産業化 ➢ 大胆な規制・制度改革、等
(4) 人材力を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ➢ グローバル人材や高度理系人材（含、女子）の育成 ➢ 女性の活躍推進 ➢ 高度な能力を有する外国人材の積極的受け入れ、等
(5) 成長の基盤を確立する	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 経済性ある価格での安定したエネルギー供給の確保 ➢ 財政・社会保障制度の再構築 ➢ 道州制の導入 ➢ 少子化対策への環境整備 ➢ 電子行政の推進 ➢ 多様で柔軟な労働市場の形成、等
(6) 立地競争力を磨く	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 法人実効税率の引き下げ ➢ 競争力強化と国土強靱化を念頭に置いたインフラ整備、等

4. 2030年度に向けた展望と決意

「6つのエンジン」の改革の実行により、2014年度から2030年度の平均で名目3%、実質2%程度の成長は十分可能。現時点で約480兆円の名目GDPは、2030年度には850兆円規模に達する。また、2020年度には、財政のプライマリー・バランス黒字化を達成。長期債務残高の対GDP比も段階的に低下。

経団連としても、国民生活の一層の豊かさを追求するため、イノベーションの加速と新たな成長の機会の創出に全力で取り組み、上記展望の実現に邁進する決意。